



かわだ けいこ 河田 圭子さん

昭和19年新潟県新発田市生まれ。平成2年、民

話していました。サミットに招かれた河田圭子さんは、この光景を見て「これが茶の間の。誰かの指示を待って行動するのではなく出来ることを自ら進んでする。そして、思い思いの過ごし方をして楽しんでいる」と話していました。「茶の間体験」後に行われたサミットでは、心身ともに体調が悪かった人からもらった「茶の間に通うことで生き返った」という手紙や、参加した人から「家にいるよりくつろげると言ってもらえた」などのエピソードも紹介されました。



自分も仲間と一緒にこのような場を作り上げていきたいという声も聞かれました。「地域の茶の間」を一言で言い表すのは難しく、開催方法も違えば活動内容も違ってきます。ただ、ひとつ挙げるのであれば、誰もが自由に集える場であり、楽しく過ごせる場であるということではないでしょうか。

間助け合い活動「新潟まごころヘルプ」を立ち上げ、平成9年には、地域の交流の場として「地域の茶の間」を開始。さらに宿泊も可能となった地域の茶の間「うちの実家」を平成15年に設立し、現在も活動中。

### 「茶の間」を訪ねて

公開サミットに参加した方が運営する「茶の間」をご紹介します。

#### 地域の茶の間を考える会

白石駅通商工振興会商店街にある白石まちづくりハウスの2階で「地域の茶の間」は開かれています。

この「茶の間」が開かれるようになったのは、「地域の茶の間を考える会」が、地域の人々のために何か出来ないかと考えたのがきっかけでした。

取材当日は、朝から雨が降っていたこともあり「今日は、参加者が少ないかなあ」などという言葉が聞かれましたが、4歳から60歳代の方まで20人近い人々が集まりました。会場では、茶菓子をつまみながら話に華を咲かせている姿や、その傍らで孫とお絵か

きをするお年寄りの姿が見られました。また、マージャンをする人々や、長いすでくつろいでそれらの姿を眺める人もおり、それぞれ思い思いの過ごし方をしていました。世話人の一人である常盤野晴子さんは「初めて来る人も気軽に参加できるようにしたい。そして、茶の間をもっと広めていきたい」と話していました。

#### みんなのお茶の間「くるくる」

みんなのお茶の間「くるくる」は、本郷通から住宅街に一本入ったところにある土橋紘子さんの宅のガレージを改装した部屋で開かれています。

訪ねたときは、すでに4人の先客がおり、取材中も次から次へと人が訪れ、中央に置かれた長テーブルの周りには、座る場所もないほどの人にながわいました。

平成16年に、土橋さんが「くるくる」を開いた当初は、友人と二人きりで過ごすことになっても良いという気持ちで開いたそうです。しかし、近所の人が顔を出してくれたり、口づてに広がったりと自然に人が集まるようになったという事です。

土橋さんは「遠いところからわざわざ訪ねてくれる人もいてうれしいけれど、無事に帰れたのか心配になることがある。茶の間が広まって、気軽に近くの茶の間に行けるようになっていけば良いですね」と話していました。

#### 【地域の茶の間を考える会】

- 場所 白石区平和通3丁目北3-1 葵ビル 白石まちづくりハウス2階
- 日時 毎月第1日曜（原則）午前10時～午後3時
- 参加費 茶とお菓子代として200円 昼食を希望する方は別途300円
- 問い合わせ先 ☎866-6683

